



# 京都市学校歴史博物館だより

VOL. 22

平成24年4月発行



正門、石塀は、国登録文化財

本館は、京都の学校に関する資料の保存・研究・展示を進める博物館です。

次号予告

企画展

## 人の心のあたたかさと、理くつなしの涙

～ 一教師・大橋まりの記憶と記録 ～

**開催期間** 平成24年4月28日(土)～8月28日(火)

※資料保存のため、約一ヶ月ごとに展示替を行います。

### 戦後教育の「心」にふれる

戦中から戦後にかけて、一教師として生涯を全うした、ひとりの女性。

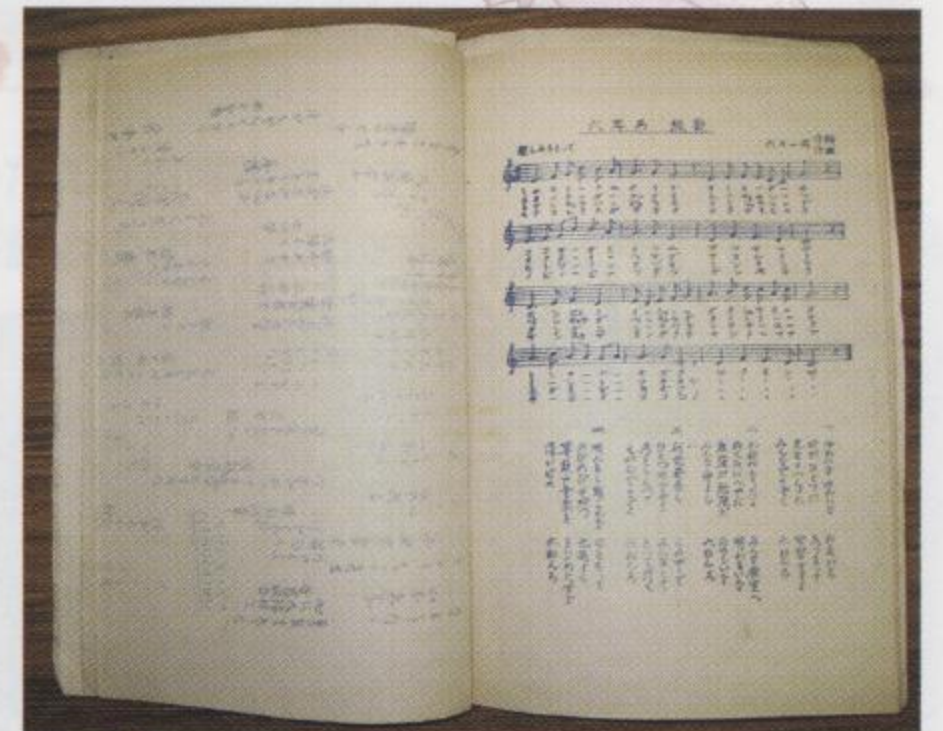
その教師の記憶と記録にふれ、そこに生命を吹きこむ。

本展は、小学校教師・大橋まり（1923～2009）の教師人生をふり返り、そこに宿るさまざまな思いと情景を体感していただく企画展です。

一教師としての大橋先生の記憶と記録には、我々一般人にとっての「リアル」な世界が残されています。今回の企画展であえて有名人をとりあげないのは、その「リアル」な世界を大切にしたいからです。歴史的に忘れられやすく、かえりみられることの少ない〈人の心のあたたかさ〉を、抽象化することなく、美化することなく、伝えたいからです。

今回展示するのは、学校に遺された貴重な美術工芸品の他には、主に卒業文集や写真、手紙など、ありふれたものばかりです。しかしそこには、大橋先生とその児童たちがのこした、かけがえのない生活の思い出が宿っています。教師就任直後の学童集団疎開、終戦後に教え子たちと離ればなれになったこと、卒業文集を通じて旧交を温めたこと、音楽を通してさまざまな喜びと出会いがあったこと…。

この企画展を通じて、戦中戦後の激動期を生きた一教師の歩みをもとに、学校生活の中で生まれた〈人の心のあたたかさ〉を感じていただけると幸いです。



ガリ版刷りの卒業文集（1952年度卒業生）

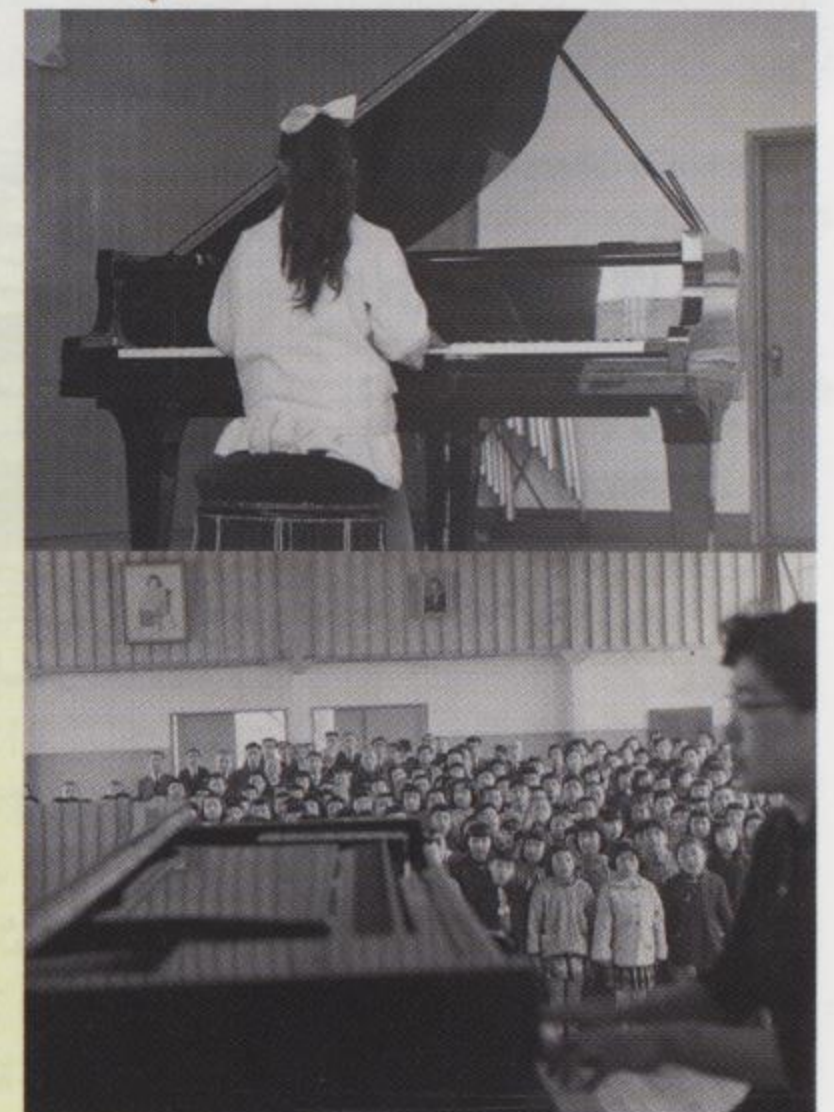


小学5年生用音楽教科書『あのおの音あ』（教育出版、1948年検定済）

#### 大橋まり（1923～2009）

1944年に、京都市の小学校教員となる。翌年に学童集団疎開を経験し、その後、京都市内のいくつかの小学校教員を歴任。ピアノの伴奏と合唱指導を得意とし、音楽を通じた児童とのふれあいを大切に。心に響くあたたかい言葉の数々を、卒業文集や学校新聞などにのこしている。

#### Profile



1958年小学校へ寄贈されたピアノを演奏する児童（上）と大橋まり（下）

# 「京都教師塾」のみなさん、来館!

2011年12月17日、午前9時30分。とても寒い朝で、天気予報では降雪が予報されていた。だが、当博物館の玄関は熱気に満ちていた。二十歳前後の若者を中心に十数名、10時から開催される当館での研修を待つ、京都教師塾生たちの熱気だ。

「京都教師塾」。この塾は、講義やグループ討議、実地研修などを通じて教師としての資質を磨く場。京都市教育委員会が、2006年以降毎年開講している。当館では例年、12月と1月に同塾のフィールドワークが行われ、それぞれ約20名～30名の塾生が参加している。



当館博物館主事による解説  
(当館3階の教室)

午前10時。当館3階の教室に、塾生たち21名が集まった。まずは、京都における学校教育の歩みを、当館博物館主事がパワーポイントを用

いて解説。地域の方々と行政が、手を取り工夫を凝らしながら育ててきた京都の学校の歴史を学んだ。解説や当館案内のDVDを視聴した後は、展示室へ。常設展である第一展示室を中心に、塾生たちは資料の一つひとつに熱心なまなざしを向けた。

歴史を学ぶことの意義は何か。それは、「現在」を比較・相対化することで、「現在」を見る目を養うことにあると思う。未来の教師たちが、今後のさまざまな取組みの中に、当館で学んだことを活かしてもらえることを願いたい。



常設展を見学する塾生

## 学校団体見学

### ～さまざま教育の場としての博物館～

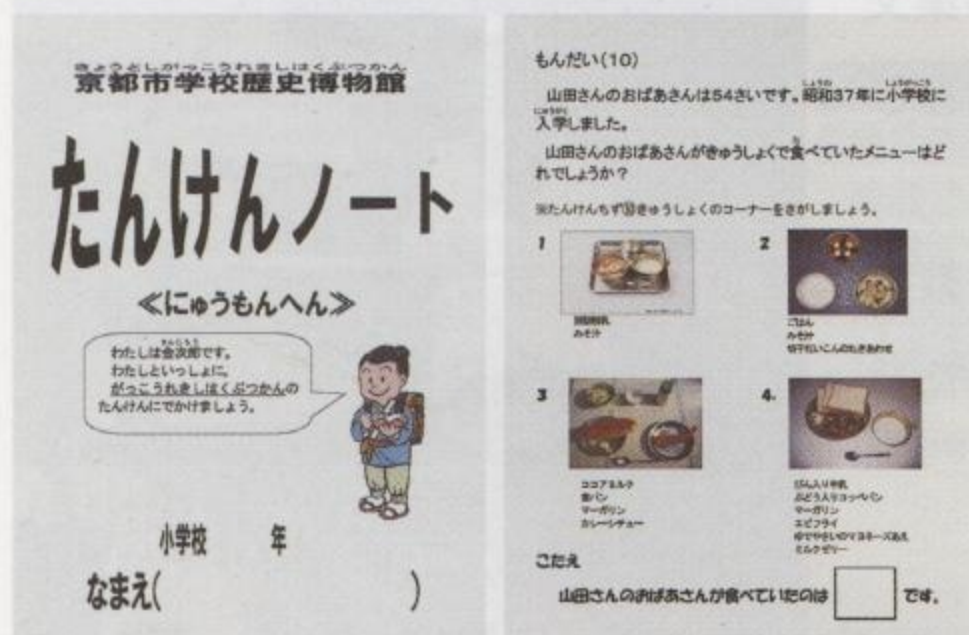
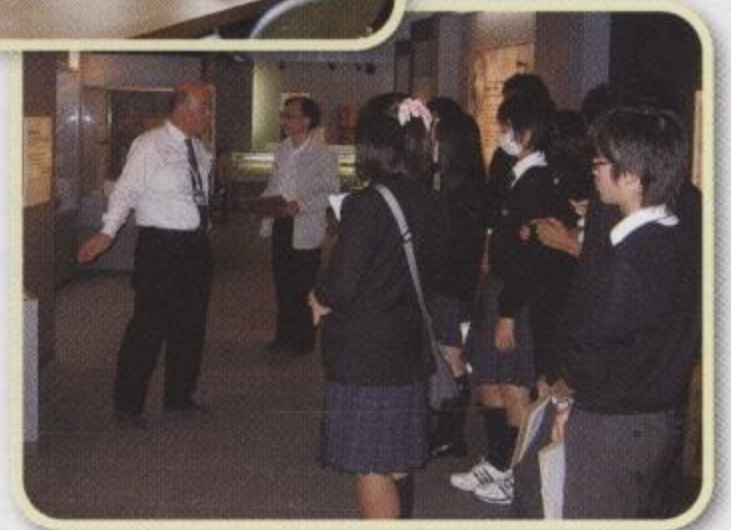
当館は、小学生用の社会科教科書で紹介されており、市内小学生の団体見学を積極的にサポートしています。最近(2012年1月末～2月初)では、美豆小学校3年生61名、明親小学校3年生60名、楽只小学校6年生11名が当館を見学し、社会教育の場として当館を活用しました。

団体見学の申込は、先生から事前にご連絡いただき、その後、当館博物館主事が見学のねらい・内容・日程などの打ち合わせをさせていただきます。見学当日は、「たんけんノート」というワークシートをご用意させていただくこともできるので、ぜひご利用ください。

また2011年度は、高校では京都市立堀川高等学校、大学では京都教育大学、同志社大学、京都女子大学、立命館大学、京都光華女子大学、同志社女子大学、大阪樟蔭女子大学、奈良大学などの学生が、団体見学をされました。当館では、京都における学校の歴史を主体的に学ぶことができます。今後も多くの学校にご活用いただけると幸いです。



団体見学の様子



団体見学用のワークシート  
「たんけんノート」(入門編)



# 昔の学校あれこれ

## 第十五回

### 学 区

京都というところは、とても興味深い「地元のあたりまえ」がある。私のような京都出身ではない者にとっては日々驚くばかり。その驚きはとても新鮮で、興味の尽きるところがない。

例えば、「学区」という共同体がある。

「学区」とは、辞書的な説明をすると、「子どもが共通の学校へ通学する範囲」となる。全国どこでも通用する言葉だろう。でも京都市には、学校がない「学区」がある。どういうことか。

例えば、当館が立地する開智学区。開智学区ということは、開智小学校があるはずなのだが、地図をいくら探しても開智小学校はない。そもそも、「開智」という地名がない。引越してきたばかりの人は少し混乱するかもしれないが、調べてみると、約20年前まで開智小学校があったが今は閉校し、学校歴史博物館として生まれ変わったことがわかる。だが今でも「開智学区」は確かに存在し、「開智夏まつり」や「開智学区民体育祭」、「開智区民ボウリング大会」というユニークな催しまでもがある。これらのイベントは他の学区でも開催され、我々の安全を守ってくれている消防分団も、学区単位で編成されているところが多い。つまり京都市の「学区」とは、「地域コミュニティ」の京都バージョン、ともいうべき存在なのだ。小学校閉校後も、地域の運動会、エコ活動、消防分団など、「学区」が京都市の人々の生活を支える単位として、非常に大きな意味を持っている。

その「学区」の始まりは、明治2年(1869年)に創設された、64校のいわゆる「番組小学校」。京都の町衆は、全国に先駆けて、「番組」という名の「学区」にもとづいた小学校を、1年のうちに64校も創り上げた。その力は、今も「学区」という「地域コミュニティ」の運営力として、引き継がれているのだろう。(当館職員 和崎光太郎)



8月19日(土)  
午後4時30分～9時

所 京都市学校歴史博物館  
場 グラウンド

※チケットなど詳しくは  
各町内会長さんまで  
おたづね下さい。

夏祭りの雰囲気がとてもよく伝わる、開智学区の夏まつりポスター。

### 来館者の感想から

当館は、小学生から高齢者の方まで、幅広くお楽しみいただける博物館です。

本コーナーでは、2011年4月から12月までの当館来館者の声を、そのままお届けいたします。

・むかしのひとのペンキょうがわかってよかった。(小学生)

・教科書を面白く拝見しました。道徳や歌など好きなもので、もっと見たいと思います。給食などなつかしさがよみがえりました。(30歳未満)

・写真を見せてもらい、当時の様子や、その時代の息づかいが伝わってくるようで感動しました。(50歳代)

・資料を置いている机が小学校で使用されているものだったり、とてもなつかしい感じがしました。(大学生)

・小学校に狩野派の雲龍図が所蔵されているとは…すごいですね。(40歳代)

・VTRを最初に見て、概略が良く理解出来、展示物にも興味を持った！給食サンプルが懐かしかった！(60歳代以上)

・戦時中を体験した私としては、ただなつかしいの一言あるのみ。(70歳代以上)

2011年4月～12月

### ボランティア市民学芸員の

## 声

### あるボランティアが学校歴史博物館で学んだこと

なかじま ていいち  
中 篤 梯 一



明治2年、1年間に64校もの番組小学校を新規に開設したエネルギーの源泉は、どこにあるのだろうか。まず、町衆の力。町衆は室町時代の貨幣経済の発展、応仁の乱、京都所司代による大幅な自治の承認などを経験し、「擦れ枯らしく」(すれっからしく)遅く生き延び続けた。次に、教育基盤。江戸時代には、漢学塾「古義堂」、心学講舎「明倫舎」に加えて、庶民教育のための寺子屋が設置されていた。最後に、

人材育成への意気込み。東京遷都などで京都が衰微する中で、明日の京都を背負う人材の育成が急務とされた。その結果、治世者と町衆が力を合

わせ、64校もの番組小学校創設に動いたのである。

番組小学校の歴史的意義とは何か。それは、京都の近代化に大きく貢献したこと、全国で始めて学区制を導入したこと、希望者は全入できたことがうかがえること、自分たちの学校という強い意識のもとで元学区が現在でも区民運動会などを開催していることなどがある。

一方、番組小学校の限界としては、江戸時代の封建思想がそのまま近代へ持ち込まれたこと、電金に見られるごとく寄付の強制ごときもものがあったのではないかということ、学校毎の美術品収集競争的なものがあったのではないかということ、元学区意識が強い為閉校しても跡地を市が手放すことが出来ないのではないかとといったことがあげられるだろう。

# 博物館からの報告のご案内

## 開催報告

「日本刺繍教室～京<sup>きょう</sup>繡を体験しよう～」を開催して（成人対象）  
平成24年2月5日(日)・6日(月)どちらか一日、午後1時～4時

明治の女学校で習っていた日本刺繍（京繡）を気軽に体験できる教室です。昨年までの教室名と内容を少し変更して一日体験となりました。参加者は2種類の図柄から好きな方を選び、糸の色も自由に選んでミニ風呂敷（37cm×37cm）に刺繍します。京都刺繍協同組合の職人さん達のフォローもあって、それぞれ雰囲気の違いが可愛らしい刺繍が完成しました。



### 参加者の声 (アンケートより抜粋)

- とっても楽しく参加させて頂きました。ありがとうございました。
- まるは難しい…。楽しかったです。またやってみたいです。ありがとうございました。
- 何をするのかわからず手間取ってしまいましたが、最後先生に助けていただきました。
- 難しかったけど楽しかったです。半衿に刺繍します!

## 展示開始

### 「吉見家旧蔵の文安算盤」を常設展示室にて展示開始

京都は、江戸時代初期に日本で最初にそろばん塾が設立された地と言われます。「吉見家旧蔵の文安算盤」は、その頃に使用されていた、現存する数少ないそろばんのうちのひとつです。裏面には「文安元子年」（1444年）と書かれており、それらの中でも日本最古のそろばんの可能性ががあります。

明治時代には、天皇・皇后も行幸した第二回内国勸業博覧会（1881年）に出展されました。



### これから予定されている講座・教室

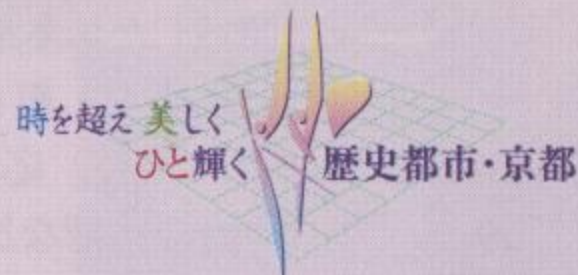
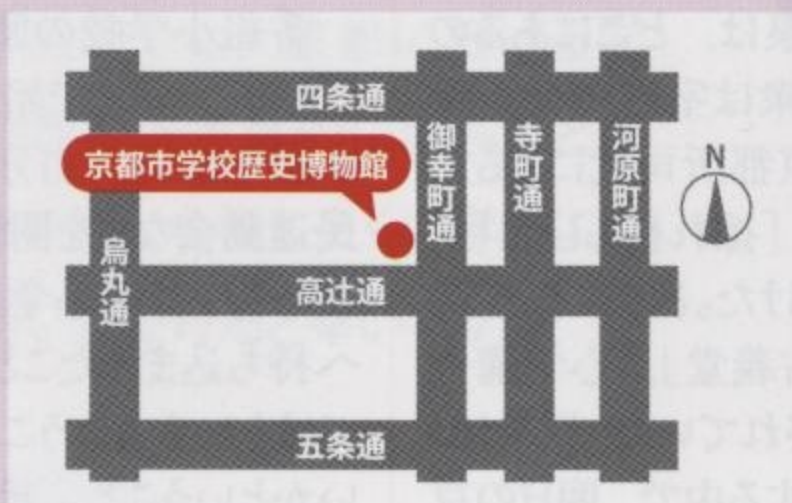
行事（一般対象）	曜日	日程	体験教室（小学生対象）	日程
館長談話室	火	毎月第3火曜日 ※8月は休み	にほん画に挑戦!	夏休みに開催 (詳細は本誌次号にて発表いたします)
合唱教室	金	毎週	明治の小学校 書写教室	
日本画教室	火	隔週	おもちゃの手作り教室	
唱歌・童謡教室	月	5月7日～6月4日 (5回連続です)	むかしの学習を体験しよう!	

※日程などの変更の可能性があります。その他、開催時間など、詳しくはお問い合わせください。  
TEL075-344-1305 (9:00～17:00, 水曜休館)

## 京都市学校歴史博物館

京都市下京区御幸町仏光寺下ル橋町437 (元開智小学校)  
TEL. 075-344-1305 FAX. 075-344-1327  
URL. <http://kyo-gakurehaku.jp>

- 入館料/大人200円 子ども(高校生以下)100円  
(20名以上の団体/大人160円 子ども80円)  
※京都市内の小・中学生は土・日は無料
- 開館時間/9:00～17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日/水曜日(休日の場合は翌平日)  
12月28日～1月4日



- 阪急電車/「河原町」駅下車 南西へ歩5分
- 地下鉄/烏丸線「四條」駅下車 南口改札東へ歩10分
- 市バス/「四條河原町」停留所 河原町通より西へ二筋目(御幸町通)より南へ歩5分